

SONY®

ホームシアター システム

取扱説明書

聞く／見る

音声を調節する

BLUETOOTH機能を使う

ネットワーク機能を使う

著作権保護された4Kコンテンツを見る

詳細な設定と調整

その他の機能

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊のスタートガイドをよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告 安全のために

(→ 46 ページ～53 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のために注意事項を守る

46～53 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

41 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・におい
がしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る。
- ② 電源プラグをコンセントから抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

この取扱説明書の見かた

- ・本書では操作の説明はリモコンを使っています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。
- ・イラストは細かい部分をはぶいて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・お買い上げ時の設定に下線がつけてあります。
- ・([--]) カッコの中に書かれている文字はテレビ画面に、([--J]) カッコの中に書かれている文字は前面表示窓に表示されます。

目次

接続と準備 → スタートガイド（別冊）をご覧ください。

安全のために	2
この取扱説明書の見かた	3

聞く／見る

接続した機器の音声／映像を 楽しむ	6
USB機器の音楽／画像を 再生する	6
BLUETOOTH®機器の音楽を 聞く	7
ネットワークを経由して 他機器から音楽／画像を 再生する	7

音声を調節する

サウンド効果を楽しむ	8
DSEE HX機能を使う（圧縮音 源を自然な音質で再生する） ...	9

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機器の音楽を 聞く	10
BLUETOOTH対応レシーバー (ヘッドホンなど) に送信して 音声を聞く	13

ネットワーク機能を使う

有線でネットワークに 接続する	15
無線でネットワークに 接続する	16
ホームネットワークでファイルを 再生する	18
オンラインサービスを楽しむ	19
スクリーンミラーリングを 使う	20

著作権保護された4Kコンテン ツを見る

4Kテレビとつなぐ	21
4K機器とつなぐ	22

詳細な設定と調整

設定メニューを使う	22
オプションメニューを使う	32

その他の機能

スマートフォンやタブレットなど のモバイル機器から本機を操 作する (SongPal)	34
“ブラビアリンク”	35

デジタル放送用の音声（AAC）を 楽しむ	39
本体のタッチキーを動作しない ようにする（チャイルド ロック）	40
明るさを調整する	40
スタンバイ状態時の消費電力を おさえる	40

その他

使用上のご注意	41
故障かな？と思ったら	54
各部の名前と働き	62
再生できるファイルの種類	65
対応している音声フォー マット	66
保証書とアフターサービス	67
主な仕様	67
ワイヤレス技術について	71
BLUETOOTH無線技術に ついて	72
索引	74
ソフトウェア使用許諾契約書	76

聞く／見る

接続した機器の音 声／映像を楽しむ

入力切換+/-ボタンを押す。

ホームボタンを押してから◀/↑/↓/▶ボタンを繰り返し押し、決定ボタンを押して使いたい入力を選ぶことができます。

[TV]

TV（デジタル入力）端子につないだ機器（テレビなど）やHDMI出力（ARC）端子につないでいるオーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビ

[HDMI1] / [HDMI2] / [HDMI3]

HDMI入力1／2／3端子につないだ機器

[Bluetooth Audio]

「BT」

A2DP対応のBLUETOOTH機器

[Analog]

「ANALOG」

アナログ入力端子につないだ機器（デジタルメディアプレーヤーなど）

[USB]

↓(USB)端子につないだUSB機器

[スクリーンミラーリング]

「SCR.M」

スクリーンミラーリング対応機器
(20ページ)

[Home Network]

「H.NET」

サーバーに保存されたコンテンツ
(18ページ)

[Music Services]

「M.SERV」

インターネットのミュージックサービスでご利用できるコンテンツ（19ページ）

ちょっと一言

リモコンのペアリング^④ボタンまたはミラーリングボタンを押して、それぞれ「[Bluetooth Audio]」と「[スクリーンミラーリング]」を選ぶこともできます。

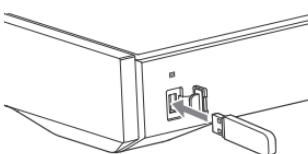
USB機器の音楽／ 画像を再生する

接続したUSBの音楽／画像ファイルを再生できます。

再生できるファイルの種類については「再生できるファイルの種類」（65ページ）をご覧ください。

1 USB機器を↓(USB)端子に差し込む。

差し込む前にUSB機器の取扱説明書をご覧ください。



2 ホームボタンを押す。

ホーム画面がテレビ画面に表示されます。

- 3**  ボタンを押して [USB] を選び、決定ボタンを押す。
- 4**  ボタンを押して  [ミュージック] または  [フォト] を選び、決定ボタンを押す。
- 5**  ボタンを押してコンテンツを選び、決定ボタンを押す。

選んだコンテンツが再生されます。

ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。データの損失やUSB機器の故障を避けるため、USB機器を本機から取りはずすときは本機の電源を切ってください。

ネットワークを経由して他機器から音楽／画像を再生する

「ネットワーク機能を使う」（15ページ）をご覧ください。

BLUETOOTH® 機器の音楽を聞く

「BLUETOOTH機能を使う」（10ページ）をご覧ください。

音声を調節する

サウンド効果を楽しむ

さまざまな音源に合わせてあらかじめ設定しておいたサウンド効果を選ぶことができます。迫力ある臨場感をお楽しみください。

ご注意

本機が送信設定のBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）と接続されているときは、サウンド効果を選ぶことができません。

サウンドフィールドを選ぶ

再生中にサウンドフィールドボタンを繰り返し押す。

[ClearAudio+]

ソニーおすすめのサウンドフィールド（音場）をお楽しみください。再生するコンテンツやファンクションにあわせて、最適なサウンドフィールドが自動で選ばれます。

[映画]

映画を見るのに最適です。

[ミュージック]

音楽を聞くときに最適です。

[スポーツ]

スポーツの臨場感を再現します。観客の声援、スタジアムの雰囲気を再現します。解説者やアナウンサーの声もクリアに聞き取ることができます。

[ゲームスタジオ]

ビデオゲームを楽しむときに最適です。

[スタンダード]

さまざまな音源に対応します。

ちょっと一言

- CLEARAUDIO+ボタンを押して [ClearAudio+] を選ぶこともできます。
- オプションメニューから [サウンドフィールド] を選ぶこともできます（32ページ）。

ナイトモード機能を使う

夜遅く映画を見るときなどに使います。音量を下げて映画を見るときでも、セリフを明瞭に聞き取れるようにします。

ナイトモードボタンを押す。

ナイトモード機能がオンになります。もう一度押すと、オフになります。

ちょっと一言

オプションメニューから [ナイトモード] を選ぶこともできます（32ページ）。

クリアボイス機能を使う

セリフを明瞭に聞き取れるようにします。

ボイスボタンを繰り返し押す。

- [ボイスモード：TYPE1]：標準設定
- [ボイスモード：TYPE2]：セリフがよりクリアに聞こえます。

- ・[ボイスモード：TYPE3]：セリフがよりクリアに聞こえ、聞きづらい部分の音量は増強されます。

ちょっと一言

オプションメニューの [ボイス] から [TYPE1] または [TYPE2]、[TYPE3] を選ぶことができます（32ページ）。

DSEE HX機能を使う（圧縮音源を自然な音質で再生する）

圧縮音源をハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、録音スタジオやコンサート会場にいるような臨場感を再現します。

この機能はサウンドフィールドで [ミュージック] が選ばれているときのみ働きます。

1 ホームボタンを押す。

ホーム画面がテレビ画面に表示されます。

2 ↑ボタンを押して右上端にある [設定] を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンを押して [音声設定] を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ボタンを押して [DSEE HX] を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ボタンを押して [入] を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

- ・可逆圧縮を含むPCM音源に対しては、DSEE HXの微小な音を再現する機能のみが有効になります。DSD（DSDIFF、DSF）形式のファイルには、DSEE HXの設定は反映されません。ファイルが最大96 kHz/24ビットまで拡張されます。
- ・44.1 kHz または 48 kHzの2チャンネルデジタル入力信号入力時に働きます。
- ・[Analog] が選ばれている場合、この機能は働きません。
- ・[Bluetoothモード] で [送信] が選ばれている場合、この機能は働きません（26ページ）。

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機器の音楽を聞く

本機をBLUETOOTH機器とペアリングする

BLUETOOTH機能を使うには、あらかじめ接続する機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。一度ペアリングを行うと、再度ペアリングをする必要はありません。

本機と機器をペアリングする前に、[Bluetoothモード] を [受信] にしてください (26ページ)。

1 本機とBLUETOOTH機器を1 m以内に置く。

2 ペアリングボタンを押す。

LED表示（青色）が点滅し、テレビ画面にBLUETOOTHのペアリング画面が表示されます。

ちょっと一言

ホーム画面から [Bluetooth Audio] を選ぶこともできます。

3 BLUETOOTH機器をペアリングモードにする。

BLUETOOTH機器のペアリングモードについては機器の取扱説明書をご覧ください。

4 BLUETOOTH機器の画面で「HT-XT3」を選ぶ。

5分以内に選ばなかったときは、ペアリングモードは解除されます。

BLUETOOTH接続が完了すると、機器名がテレビ画面に表示され、LED表示（青色）が点灯します。

ご注意

BLUETOOTH機器によっては、パスキーの入力を要求されます。その場合は、パスキー「0000」を入力してください。（パスキーは、パスコード、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれることがあります。）

ちょっと一言

[本体設定] の [機器名] を使って機器に表示される本機の名称を変えることができます (29ページ)。

5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

6 音量を調節する。

BLUETOOTH機器を適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本体で音量を調節します。

ご注意

本機は9台までの機器を登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器を登録すると、9台のなかで最後に接続した日時から最も古い機器が、新たな機器に置き換えられます。

ペアリング操作をやめる

ホームボタンまたは入力切換+/-ボタンを押す。

登録済のBLUETOOTH機器へ接続する

登録済のBLUETOOTH機器へ接続することができます。

再生をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

- 相手側のBLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能が有効になっている。
- 本機と相手側のBLUETOOTH機器のペアリングが完了している（10ページ）。
- [Bluetoothモード] が [受信] になっている（26ページ）。

1 ペアリング \otimes ボタンを押す。

ご注意

最も新しく接続されたBLUETOOTH機器をつなぐには▶ボタンを押し、手順5に進んでください。

2 オプションボタンを押す。

3 [機器リスト] を選び、決定ボタンを押す。

ペアリングされているBLUETOOTH機器の名前がリストに表示されます。

4 \uparrow/\downarrow ボタンを繰り返し押して機器を選び、決定ボタンを押す。

5 ►ボタンを押して再生を開始する。

6 音量を調節する。

BLUETOOTH機器を適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本体で音量を調節します。

ご注意

- ・本機と接続されたBLUETOOTH機器は、▶、II、■、◀/▶または◀/▶ボタンで再生を操作できます。
- ・[Bluetoothスタンバイ] を [入]（27ページ）に設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも、BLUETOOTH機器から本機とBLUETOOTH接続して、本機の電源を入れることができます。
- ・BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

ちょっと一言

AAC音声、LDACTM音声を使用するか変更することができます（27ページ）。

BLUETOOTH機器の接続を解除する

次の項目のどれかを行ってください。

- もう一度ペアリング \otimes ボタンを押す。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能を無効にする。
- 再生画面が表示されているときに、オプションボタンを押して [切斷] を選ぶ。
- 本機またはBLUETOOTH機器の電源を切る。

BLUETOOTH機器を機器リストから削除する

- 1 上記の手順1から手順3を行う。
- 2 **↑/↓**ボタンを繰り返し押して機器を選び、オプションボタンを押す。
- 3 **↑/↓**ボタンを繰り返し押して【削除】を選び、決定ボタンを押す。
- 4 **↔/↔**ボタンを繰り返し押して【いい】を選び、決定ボタンを押す。

ワンタッチリストニング機能(NFC)でモバイル機器に接続する

NFC (Near Field Communication) はさまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。

NFC対応モバイル機器を本体のNマークに近づけると自動的に、BLUETOOTH機器の登録や接続が行われます。

対応するモバイル機器

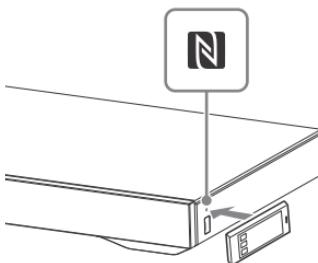
NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したモバイル機器
(対応OS : Android™ 2.3.3以降、Android 3.xを除く)

この機能はNFC対応レシーバー(ヘッドホンなど)では働きません。
接続方法については、「BLUETOOTH対応レシーバー(ヘッドホンなど)に送信して音声を聞く」(13ページ)を参照してください。

ご注意

- ・本機で認識、接続できるNFC対応機器は同時に1台のみです。
- ・モバイル機器によっては、あらかじめ以下のことをモバイル機器で行う必要があります。
 - NFC機能をオンにする。詳しくはモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。
 - Android 4.1.xより前のOSがモバイル機器に搭載されているときは、「NFC簡単接続」のアプリをダウンロードして起動する。「NFC簡単接続」はGoogle Play™からご利用になれるAndroidモバイル機器用の無料アプリです。

- 1 本体のNマークにモバイル機器を近づけます。モバイル機器が振動するまで、近づける。



モバイル機器の画面の指示に従ってBLUETOOTHの接続を完了します。

本体前面のLED表示(青色)が点灯したら、本機とBLUETOOTHが接続された状態になります。

2 モバイル機器で音声の再生を開始する。

再生については、お使いのモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- BLUETOOTH接続とペアリングがうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - 本体のNマークにモバイル機器をもう一度近づける。
 - モバイル機器に市販のケースを付けている場合は、ケースをはずす。
 - [NFC簡単接続] アプリを再起動する。
 - BLUETOOTH機器を接続したい場合は、本機がスタンバイ状態のときは、[高速起動／ネットワークスタンバイ] を [入] にする。
- 音量が小さい場合は、先にリモート機器で音量調節をします。それでもまだ音量が小さいときは、本体で音量を調節します。
- 送信状態のときに、本体のNマークにモバイル機器を近づけると、[Bluetoothモード] が [受信] に自動的に変わります。この機能はNFC対応レシーバー（ヘッドホンなど）では働きません。

再生を止める

以下の方法で再生を止めることができます。

- 本体のNマークにモバイル機器をもう一度近づける。
- モバイル機器を操作して再生を停止する。
- 本機またはモバイル機器の電源を切る。
- 入力を変える。

- モバイル機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
- リモコンの■ボタンまたはホームボタン、ペアリング \otimes ボタンを押す。

BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く

本機で再生されている音声をBLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）で聞くことができます。

- 1 **BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）のBLUETOOTH機能をオンにする。**
- 2 **[Bluetooth設定] の [Bluetoothモード] を [送信] にする（26ページ）。**
- 3 **↔/→ボタンを押して [はい] を選ぶ。**

4 ↑/↓ボタンを押して [Bluetooth設定] の [機 器リスト] (27ページ) か らBLUETOOTHレシ バー (ヘッドホンなど) の 名称を選び、決定ボタンを 押す。

BLUETOOTH接続が完了すると、
LED表示 (青色) が点灯します。

ご注意

BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホ
ンなど) の名称が見つからない場合は、
[検索] を選んでください。

5 ホームメニューに戻り、お 好みの入力を選ぶ。

本体の表示窓に「BT TX」と表示
され、BLUETOOTH対応レシ
バーから音声が出力されます。
本機のスピーカーから音声は出力
されません。

6 音量を調節する。

BLUETOOTHレシーバー (ヘッ
ドホンなど) を適度な音量にしま
す。

BLUETOOTH対応レシーバー
(ヘッドホンなど) に接続した状
態で、本機の音量は調節できま
せん。本体の音量タッチキーヤリモ
コンのボタンは、BLUETOOTH
レシーバー (ヘッドホンなど) に
しか働きません。

ご注意

- BLUETOOTH対応レシーバーによって
は音量を調節できない場合があります。
- 本機が送信状態のときは、[スクリーンミ
ラーリング] 入力または [Bluetooth
Audio] 入力、オーディオ機器コント
ロール機能が無効になります。
- [Bluetooth Audio] か [スクリーンミ
ラーリング] の入力を選んでいるときは
[Bluetoothモード] を [送信] にする
ことはできません。また、リモコンの
受信／送信  ボタンでの切り換えはで
きません。
- BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホン
など) は9台まで登録することができ
ます。9台分を登録したあと新たなレシ
バーを登録すると、9台のなかで最後に接
続した日時から最も古いレシーバーが、
新たなレシーバーに置き換えられます。
- BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホン
など) は [機器リスト] に15台まで表示
することができます。
- 音声送信中はオプションメニューのサウン
ド効果や設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されて
いるコンテンツは出力できません。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、
本機からの音声出力に比べて
BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホン
など) からの再生はわずかに遅れます。
- BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホンな
ど) が正しく接続されているときは、本機
のスピーカーやHDMI出力 (ARC) 端子
からは音声が出力されません。

ちょっと一言

- 本機とBLUETOOTHレシーバー (ヘッ
ドホンなど) を接続すると、
BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホン
など) の操作ボタンで再生ができます。

- 受信／送信  ボタンを繰り返し押して [送信] を選ぶと、いちばん最近接続されたBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）と本機を接続することができます。次に、本機で音源を再生します。

BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）の接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

- BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）のBLUETOOTH機能を無効にする。
- [Bluetoothモード] を [受信] または [切] にする（26ページ）。
- 本機またはBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）の電源を切る。
- ワンタッチ（NFC）を行う。

登録されたBLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）を削除する

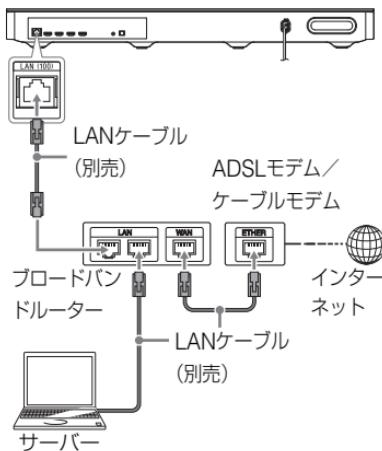
- 1 [Bluetooth設定] の [機器リスト] を選ぶ（27ページ）。
ペアリングされていて検出されたBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）のリストが表示されます。
- 2  ボタンを押して機器を選び、オプションボタンを押す。
- 3  ボタンを押して [削除] を選び、決定ボタンを押す。
- 4  ボタンを押して [はい] を選び、決定ボタンを押す。

ネットワーク機能を使う

有線でネットワークに接続する

LANケーブルを使ってネットワークに接続する

次のイラストは本機とサーバーのホームネットワーク配置例です。



ちょっと一言

シールドタイプのLANケーブル（ストレートケーブル）をお使いください。

有線LAN接続の設定をする

[かんたんネットワーク設定] を行った場合、次の設定は必要ありません。

1 ホームボタンを押す。

ホーム画面がテレビ画面に表示されます。

2 ↑ボタンを押して右上端にある [設定] を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンを押して [通信設定] を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ボタンを押して [ネットワーク設定] を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ボタンを押して [有線LAN設定] を選び、決定ボタンを押す。

テレビ画面にIPアドレスの取得方法を選ぶ画面が表示されます。

6 ↑/↓ボタンを押して [自動取得] を選び、決定ボタンを押す。

7 ↑/↓ボタンを押して情報を閲覧し、→ボタンを押す。

8 ↑/↓ボタンを押して [接続診断] を選び、決定ボタンを押す。

ネットワーク接続が開始されます。詳しくはテレビ画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使う場合

手順6で [手動] を選び、画面の説明に従って [IPアドレスを指定] を選びます。IPアドレスの入力画面がテレビ画面に表示されます。

画面の説明に従い [IPアドレス] の値を入力し、決定ボタンを押して値を確定します。

[サブネットマスク] および [デフォルトゲートウェイ]、[プライマリDNS]、[セカンダリDNS] の値を入力し、決定ボタンを押します。

無線でネットワークに接続する

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定をする前に

無線LANルーター（アクセスポイント）がWi-Fi保護設定（WPS）に対応しているときは、WPSボタンで簡単にネットワーク設定ができます。

対応していない場合は、以下の手順に従って、無線LANルーターの情報を入力してネットワーク設定をする必要があります。次の情報をあらかじめご確認ください。

- LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) *
- ネットワークのセキュリティキー (パスワード) **

* SSID (Service Set Identifier) は具体的なアクセスポイントを確認する名前です。

** この情報は、無線 LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、ワイヤレスネットワークを設定した人、またはインターネットサービスプロバイダーから得ることができます。

1 「有線LAN接続の設定をする」(16ページ)の手順1から手順4を行う。

2 ↑/↓ボタンを押して [無線 LAN設定 (内蔵)] を選び、決定ボタンを押す。

ご利用できるSSID (アクセスポイント) のリストがテレビ画面に表示されます。

3 ↑/↓ボタンを押してネットワーク名 (SSID) を選び、決定ボタンを押す。

セキュリティー設定がテレビ画面に表示されます。

4 テレビ画面のキーボードを使ってセキュリティキー (WEPキー、WPA/WPA2キー) を入力する。←/↑/↓/→ボタンと決定ボタンを使い、文字や数字を選び [Enter] を選んでセキュリティキーを確定する。

ネットワーク接続が開始されます。詳しくはテレビ画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使う場合

手順3で [新しい接続先の登録] を選び、[手動登録] を選んで、画面の説明に従って [IPアドレスを指定] を選びます。IPアドレスの入力画面がテレビ画面に表示されます。

画面の説明に従い [IPアドレス] の値を入力し、決定ボタンを押して値を確定します。

[サブネットマスク] および [デフォルトゲートウェイ]、[プライマリDNS]、[セカンダリDNS] の値を入力し、決定ボタンを押します。

ご注意

ネットワークが暗号化によって保護されていない場合は、手順4のセキュリティーの設定画面は表示されません。

ホームネットワークでファイルを再生する

ホームネットワークに接続すると他のホームネットワーク対応機器で音楽／画像のファイルを再生できます。

本機はプレーヤーまたはレンダラーとして使用できます。

- ・サーバー：デジタルメディアコンテンツを保管、共有します。
- ・プレーヤー：サーバーからデジタルメディアコンテンツを検索し、再生します。
- ・レンダラー：サーバーからのファイルを受信し再生します。他の機器（コントローラー）で操作できます。
- ・コントローラー：レンダラー機器を操作します。

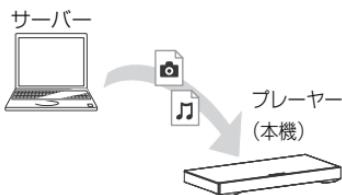
ホームネットワーク機能を使うための準備

- ・本機をネットワークにつなぐ（15ページ）。
- ・他のホームネットワーク対応機器を準備する。詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

本機（プレーヤー）を使ってサーバーに保管されたファイルを再生する

ホーム画面から [Home Network] を選び、サーバーを選びます。

♪ [ミュージック] または  [フォト] から再生したいファイルを選びます。



ホームネットワークのコントローラーで本機（レンダラー）を操作し、リモートファイルを再生する

サーバーに保管されたファイル再生中に、ホームネットワークコントローラー対応機器（携帯電話など）を使って本機を操作できます。



操作についてはホームネットワークコントローラー対応機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機のリモコンとコントローラーを同時に使って操作しないでください。

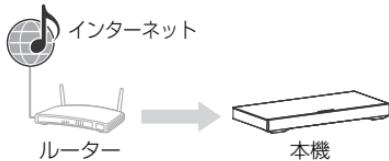
ちょっと一言

本機はWindows 7に装備のWindows Media® Player 12のリモート再生機能に対応しています。

オンラインサービスを楽しむ

本機を使ってインターネットのミュージックサービスを聞くことができます。この機能を使うには、本機がインターネットに接続されている必要があります。

以下の操作をすると、各ミュージックサービスを楽しむためのガイドが表示されます。ガイドに従ってミュージックサービスをお楽しみください。



1 ホームボタンを押す。

ホーム画面がテレビ画面に表示されます。

2 ➡/⬇ボタンを押して

[Music Services] を選

び、決定ボタンを押す。

サービスプロバイダーのリストがテレビ画面に表示されます。

ご注意

インターネットのコンテンツ接続状態により、サービスプロバイダーのリストがテレビ画面に表示されるまでに時間がかかることがあります。

ちょっと一言

サービスプロバイダーをアップデートするにはオプションボタンを押し、[サーバーリスト更新] を選びます。

3 ↪/⬅ボタンを押してミュージックサービスを選び、決定ボタンを押す。

リストに戻るには戻るボタンを押してください。

Google Cast™を使う

Google Castを使うことで、Google Cast対応アプリから音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。

Google Castを使うには、SongPalによる設定が必要です。

1 スマートフォンなどのモバイル機器に無料アプリ SongPalをダウンロードする。

2 本機を接続している同一のネットワーク（15ページ）にモバイル機器をWi-Fiで接続する。

3 SongPalを起動して、「HT-XT3」を選び、「設定」 - 「Google Cast」 - 「キャスト方法」の順にタップする。

4 使用方法とGoogle Cast対応アプリを確認し、アプリをダウンロードする。

- 5 Google Cast対応アプリを起動し、キャストアイコンをタップして、「HT-XT3」を選ぶ。**



- 6 Google Cast対応アプリで音楽を選び、再生する。**
本機で音楽が再生されます。

ご注意

本体の表示窓に「GOOGLE CAST UPDATING」が表示されている間はGoogle Castを使用することができません。しばらく待ってから操作してください。

スクリーンミラーリングを使う

スクリーンミラーリングとはモバイル機器の画面をMiracastテクノロジーによってテレビに表示する機能です。スクリーンミラーリング対応機器（スマートフォン、タブレットなど）と本機を直接つなぐことができます。これにより、テレビの大画面で相手機器のディスプレイを楽しむことができます。この機能を使うのにワイヤレスルーター（またはアクセスポイント）は必要ありません。

- 1 ミラーリングボタンを押す。**

- 2 画面の指示に従ってください。**

相手機器でスクリーンミラーリング機能を有効にしてください。この機能を有効にする方法については相手機器の取扱説明書をご覧ください。

ワンタッチミラーリング機能(NFC)でXperiaスマートフォンを接続する

ミラーリングボタンを押して、本体のNマークにXperiaを近づけます。

ミラーリングを終了するには

ホームボタンまたは入力切換 +/- ボタンを押します。

ご注意

- 他のネットワークからの電波干渉により、スクリーンミラーリングの音質や画質が悪くなる場合があります。
- スクリーンミラーリング中は、ネットワーク機能が使えない場合もあります。
- 機器がMiracast対応であることを確認してください。すべてのMiracast対応機器の接続性が保証されているわけではありません。
- 使用環境によっては、画質や音質が悪くなる場合があります。

ちょっと一言

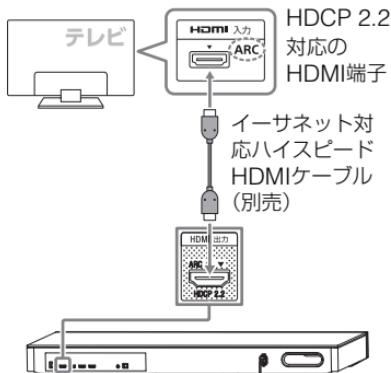
- ミラーリング中にサウンド効果を選ぶことができます。サウンド効果ボタンを押してください（64ページ）。
- 画質や音質がよくない場合、【スクリーンミラーリング周波数設定】で改善できます（30ページ）。

著作権保護された4Kコンテンツを見る

4Kテレビとつなぐ

著作権保護された4Kコンテンツを見る場合は、テレビと本機のHDCP 2.2対応HDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4KコンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子につながないと視聴できません。お使いのテレビのどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

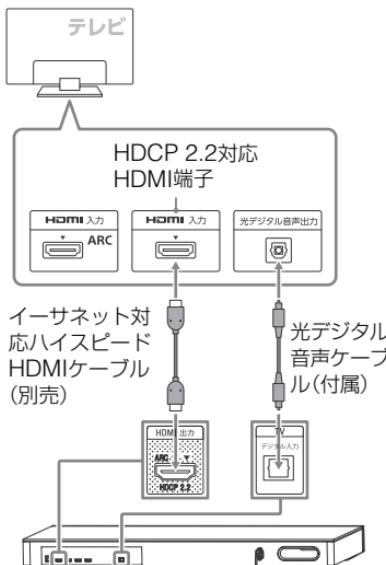
テレビのARC*表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応している場合



* ARC (オーディオリターンチャンネル)
機能はHDMIケーブルを使って、デジタル音声をテレビから本機に送信します。

テレビのARC表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していない場合

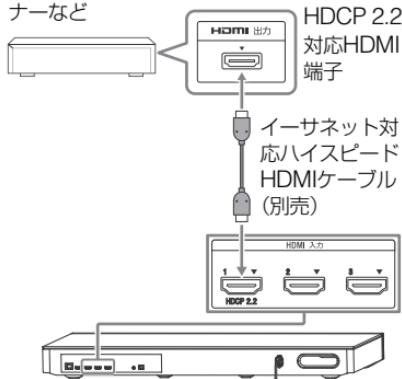
テレビの光デジタル音声出力端子に光デジタル音声ケーブルをつないでください。HDCP 2.2対応HDMI入力端子にHDMIケーブルをつないでください。



4K機器とつなぐ

本機のHDMI 入力 1端子にHDMIケーブルをつなぎます。お使いの機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ブルーレイディスク™
レコーダー、ケーブル
テレビ(CATV)ボックス
または衛星放送チュー
ナーなど



詳細な設定と調整

設定メニューを使 う

画像や音声についてさまざまな設定や調整を行うことができます。

下線はお買い上げ時の設定です。

1 ホームボタンを押す。

ホーム画面がテレビ画面に表示さ
れます。

2 ↑ボタンを押して右上端に ある [設定] を選び、決 定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンを押して設定カ テゴリーのアイコンを選 び、決定ボタンを押す。

アイコン 説明



[ソフトウェアアップデー ト] (23ページ)

本機のソフトウェアを最
新の状態にアップデート
します。



[映像設定] (24ページ)

テレビの種類にあわせて
映像の設定をします。



[音声設定] (25ページ)

接続端子にあわせて音声
設定をします。



[Bluetooth設定] (26 ページ)

BLUETOOTH機能の詳
細を設定します。

アイコン	説明
	【本体設定】(28ページ) 本機に関する設定をします。
	【通信設定】(30ページ) インターネットとネットワークの詳細を設定します。
	【入力スキップ設定】(31ページ) 入力スキップ設定をそれぞれの入力に合わせて設定します。
	【かんたん設定】(31ページ) 【かんたん設定】を再試行して、基本的な設定をします。
	【かんたんネットワーク設定】(31ページ) 【かんたんネットワーク設定】を行い基本的な通信設定をします。
	【設定初期化】(31ページ) 本機の設定を初期化します。

【ソフトウェアアップデート】

ソフトウェアを最新バージョンにアップデートすることにより、最新の機能を楽しめます。

ソフトウェアアップデート中は、本体の前面表示窓に「UPDT」と表示されます。アップデートが終了すると、本機は自動的に再起動します。

アップデート中は、本機の電源を切つたり、本機やテレビの操作をしないでください。ソフトウェアアップデート終了までお待ちください。

ご注意

- ・アップデート情報については下記のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/home-theater/>
- ・ネットワークのつながりがよくない場合、上記のウェブサイトから最新バージョンのソフトウェアをダウンロードしてUSBメモリーをおしてアップデートしてください。
- ・自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、【自動アップデート】を【入】に設定してください(29ページ)。ソフトウェアアップデートの内容によっては、【自動アップデート】が【切】に設定されてもアップデートが実行される場合があります。

■ 【ネットワーク経由でアップデート】

使用可能なネットワークを使い、本機のソフトウェアのアップデートをします。ネットワークがインターネットに接続されていることを確認してください。詳しくは「ネットワーク機能を使う」(15ページ)をご覧ください。

■ [USBメモリーからアップデート]

USBメモリーを使ってソフトウェアのアップデートをします。ソフトウェアアップデートフォルダーに「UPDATE」と名前が付けられているかどうかを確認してください。本機はアップデートファイル／フォルダーを含む、シングルレイヤーで500ファイル／フォルダーまで認識できます。



[映像設定]

■ [テレビタイプ]

[16:9]：ワイド画面のテレビまたはワイドモード機能が搭載されているテレビと接続したときに、この設定を選びます。

[4:3]：画面サイズが4:3でワイドモード機能が搭載されていないテレビと接続したときに、この設定を選びます。

■ [出力映像解像度設定]

[自動]：接続されたテレビや他機器に合わせた解像度で出力します。
[480i]、[480p]、[720p]、[1080i]、[1080p]：ディスクに記録された解像度で出力します。

■ [24p出力]

[ネットワークコンテンツ24p出力] この設定項目は、お客様がスクリーンミラーリング機能を使用される場合に、本機のHDMI出力(ARC)から出力される信号の設定をします。

[自動]：1080/24p映像に対応しているテレビとHDMI接続し、[出力映像解像度設定] を [自動] または [1080p] にしているときに、24p映像を出力します。

[切]：テレビが1080/24p映像に対応していないときに選びます。

■ [4K出力]

[自動1]：ソニー製4K映像対応機器と接続しているときは、ビデオ再生（スクリーンミラーリング）では2K（1920×1080）映像、写真再生では4K映像を出力します。

ソニー製ではない4K対応機器を使っているときは、24p映像または画像コンテンツの再生中に4K映像信号を出力します。

[自動2]：4K/24p対応機器を接続し、[24p出力] の [ネットワークコンテンツ24p出力] を正しく設定をすると、自動的に4K/24p映像信号が出力されます。2D画像ファイルを再生すると、4K/24p画像も出力されます。
[切]：この機能を使いません。

ご注意

[自動1] が選ばれているときでもソニー製機器が検出されない場合は、[自動2] 設定と同じ効果になります。

■ [HDMI映像出力フォーマット]

[自動]：自動的に外部機器のタイプを検出し、それに適合するカラー設定に変換されます。

[YCbCr (4:2:2)]：YCbCr 4:2:2映像を出力します。

[YCbCr (4:4:4)]：YCbCr 4:4:4映像を出力します。

[RGB]：HDCP対応のDVI端子のある機器と接続するときに選びます。

■ [HDMI Deep Color出力]

[自動]：通常はこの設定にします。

[12bit]、[10bit]：Deep Colorに対応しているテレビに接続されているときは12bit/10bit映像を出力します。

[切]：映像が安定しないときや色が不自然なときに選びます。

■ [Video Direct]

[HDMI1] または [HDMI2]、
[HDMI3] 入力が選ばれているときは、本機のオンスクリーンディスプレイ (OSD) を無効にできます。ゲームをしているときに、ゲーム画面だけを楽しめます。

[入]：OSDを無効にします。情報は画面に表示されず、オプションボタンと画面表示ボタンが無効になります。
[切]：サウンドフィールドの設定を変えたときなどだけ、情報を画面に表示します。

■ [SBM] (スパーービットマッピング)

[入]：HDMI 出力 (ARC) 端子から出力される映像信号の階調をなめらかに表現できます。

[切]：映像が乱れたときや色が不自然なときに選びます。

■ [音声設定]

■ [DSEE HX]

この機能はサウンドフィールドで [ミュージック] が選ばれているときのみ働きます。

[入]：圧縮音源をハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、圧縮により失われがちな高音域をクリアに再現します (9ページ)。

[切]：この機能を使いません。

■ [オーディオDRC]

音声のダイナミックレンジを圧縮することができます。

[自動]：ドルビー TrueHDでエンコードされた音声を自動的に圧縮します。

[入]：レコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジでサウンドトラックを再正します。

[切]：ダイナミックレンジの圧縮をしません。

■ [入力レベル抑制設定 – Analog]

アナログ入力端子に接続している機器の音声が歪むことがあります。その場合、音声入力レベルを小さくして歪みを防ぐことができます。

[入]：入力レベルを小さくします。本機からの出力レベルは小さくなります。

[切]：通常入力レベル。持ち運びできる機器（デジタルメディアプレーヤーなど）と接続したときに、この設定を選びます。

■ [音声出力]

本機の音声出力先を選ぶことができます。

[スピーカー]：本機のスピーカーからのみ音声を出力します。

[スピーカー+HDMI]：音声を本機のスピーカーから、2チャンネルリニアPCM信号をHDMI出力（ARC）端子から出力します。

[HDMI]：音声をHDMI出力（ARC）端子からのみ出力します。音声フォーマットは接続した機器によって異なります。

ご注意

[HDMI機器制御] が [入]（28ページ）になっているときは、[音声出力] は [スピーカー+HDMI] になり、設定を変えることはできません。

■ [オートジャンルセレクター]

[入]：テレビ番組や接続された機器のコンテンツの種類によって、サウンドフィールドを自動的に変更します。（38ページ）

[切]：この機能を使いません。



[Bluetooth設定]

■ [Bluetoothモード]

本機を使ってモバイル機器からのコンテンツが楽しめたり、ヘッドホンなどを使って音声を聞くことができます。

[受信]：本機が受信状態のときは、モバイル機器からの音声を受信し出力します。

[送信]：本機が送信状態のときは、音声を送信し、BLUETOOTH対応レスポンサー（ヘッドホンなど）へ出力します。本機の入力を切り換えると前面表示窓に「BT TX」と表示されます。

[切]：BLUETOOTHの電源がオフになります。[Bluetooth Audio] 入力が選べません。

ご注意

[Bluetoothモード] が [切] になっていても、ワンタッチリスニングを使って、モバイル機器を接続することができます。

■ [機器リスト]

[Bluetoothモード] が [送信] (26ページ) になっているときは、ペアリングされていて検出された BLUETOOTHレシーバー (ヘッドホンなど) のリストが表示されます。

■ [Bluetoothスタンバイ]

本機がスタンバイ状態でも、[Bluetoothスタンバイ] にすることにより、BLUETOOTH機器で本機の電源を入れることができます。この機能は [Bluetoothモード] を [受信] か [送信] にすると使えます。

[入]：登録されたBLUETOOTH機器と接続すると自動的に本機の電源が入ります。

[切]：この機能を使いません。

ご注意

[高速起動／ネットワークスタンバイ] を [切]、[Bluetoothスタンバイ] を [入] に設定している場合は、本機を起動することはできますが接続することはできません。

■ [Bluetooth Codec - AAC]

この機能は [Bluetoothモード] を [受信] か [送信] にすると使えます。

[入]：AACコーデックが有効になります。

[切]：AACコーデックが無効になります。

ご注意

- AACを有効にすると、高質音声が楽しめます。機器からAAC音声が聞けない場合は [切] を選びます。
- BLUETOOTH機器が接続されていて、[Bluetooth Codec - AAC] を変えた場合、このコーデックの設定は次の接続からのみ、反映されます。

■ [Bluetooth Codec - LDAC]

この機能は [Bluetoothモード] を [受信] か [送信] にすると使えます。

[入]：LDACコーデックが有効になります。

[切]：LDACコーデックが無効になります。

ご注意

BLUETOOTH機器が接続されていて、[Bluetooth Codec - LDAC] を変えた場合、このコーデックの設定は次の接続からのみ、反映されます。

ちょっと一言

LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBLUETOOTH経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC等の既存BLUETOOTH向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBLUETOOTH無線伝送を実現しています。

* DSD フォーマットは除く。

** 990 kbps (96/48 kHz) または
909 kbps (88.2/44.1 kHz) のビット
レートを選択した場合の SBC
(Subband Coding) との比較。



【本体設定】

■ [ワイヤレス再生品質]

LDAC再生のデータの送信速度を設定
できます。この機能は [Bluetooth
モード] を [送信] にして、
[Bluetooth Codec - LDAC] を
[入] にすると使えます。

[自動]：環境によってデータの転送速
度は自動的に変わります。この設定で
音声再生が不安定なときは、他3つの
中のひとつの設定を利用してくださ
い。

[音質優先]：高ビットレートが使われ
ます。音声は高品質で送信されますが、接
続状況がよくないとき音声の再
生が不安定になることがあります。

[標準]：中ビットレートが使われま
す。音質と安定性を両立させます。

[接続優先]：安定性が優先されます。
音質は多少劣化しますが接続が安定し
ます。接続状況が不安定なときは、こ
の設定をおすすめします。

■ [HDMI設定]

[HDMI機器制御]

[入]：[HDMI機器制御] を有効にし
ます。HDMIケーブルで接続された機
器をどちらからでも操作するこ
とができます。

[切]：この機能を使いません。

[オーディオリターンチャンネル (ARC)]

本機とオーディオリターンチャンネル
対応テレビのHDMI入力端子を接続し
て、[HDMI機器制御] を [入] に設
定したときに機能します。

[自動]：HDMIケーブルを経由してテ
レビのデジタル音声を自動的に受信し
ます。

[切]：この機能を使いません。

[スタンバイスルー]

本機がスタンバイ状態でも、HDMI信
号をテレビに送ることができます。こ
の機能は [HDMI機器制御] を [入]
にすると使えます。

[自動]：本機がスタンバイ状態でテ
レビの電源が入っているときは、HDMI
出力 (ARC) 端子から信号が出力さ
れます。スタンバイ状態のとき、[入]
よりも消費電力をおさえます。

[入]：本機がスタンバイ状態のとき
は、常にHDMI出力 (ARC) 端子か
ら信号が出力されます。

“ブラビアリンク”以外のテレビに接続した場合、この設定をおすすめします。

[切]：本機がスタンバイ状態のときは、信号は出力されません。スタンバイ状態のとき、**[入]**よりも消費電力をおさえます。

■ [高速起動／ネットワークスタンバイ]

[入]：スタンバイ状態からの起動時間を短くします。本機の電源を入れたらすぐに本機を使うことができます。

[切]：初期設定。

■ [自動電源オフ]

[入]：[自動電源オフ] 機能をオンにします。何も操作されないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

[切]：この機能を使いません。

■ [自動画面表示]

[入]：音声信号や映像モードなどが変わったときに、情報をテレビ画面に表示します。

[切]：画面表示ボタンを押したときのみ、情報をテレビ画面に表示します。

■ [ソフトウェアアップデート通知]

[入]：本機のソフトウェア最新バージョン情報を通知します（23ページ）。

[切]：この機能を使いません。

■ [自動アップデート設定]

[自動アップデート]

[入]：ソフトウェアアップデートは選択した [タイムゾーン] の現地時間午前2時～5時の間で、本機を使用していない間に自動的に実行されます。ただし、[高速起動／ネットワークスタンバイ] が **[切]** に設定されている場合は、本機の電源を切った直後に実行されます。

[切]：この機能を使いません。

[タイムゾーン]

お住まいの地域／都市を選択してください。

ご注意

- ・ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート] が **[切]** に設定されてもアップデートが実行される場合があります。
- ・ソフトウェアアップデートはアップデートの公開から11日以内に自動的に実行されます。

■ [機器名]

BLUETOOTH機能またはスクリーンミラーリング機能を使っているときにわかりやすいように、本機の名称を変えることができます。ホームネットワークなどのときでもこの変更した名前が使われます。画面の説明に従いソフトウェアキーボードを使って名前を入力してください。

■ [本体情報]

本機のソフトウェアバージョンと、MACアドレスを確認できます。

■ [ソフトウェアライセンス]

ソフトウェア使用許諾契約を表示します。



【通信設定】

■ [ネットワーク設定]

あらかじめ本機をネットワークにつなぎます。詳しくは「ネットワーク機能を使う」(15ページ)をご覧ください。

[有線LAN設定]：LANケーブルでネットワークに接続するときは、この設定を選びます。この設定を選ぶと、本機の無線LANは自動的に無効になります。

[無線LAN設定 (内蔵)]：ワイヤレスネットワーク接続に本機に内蔵の無線LANを使うときはこの設定を選びます。

ちょっと一言

詳しくは下記のホームページでFAQをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/home-theater/>

■ [ネットワークの設定確認]

現在のネットワークの接続状態を表示します。

■ [ネットワーク接続診断]

ネットワークに正しく接続されているか、接続して診断します。

■ [スクリーンミラーリング周波数設定]

無線LAN（ローカルエリアネットワーク）などの複数のワイヤレス機器を使っていると、ワイヤレス信号が不安定になります。通信のチャンネルを設定し直すことによって接続スピードと再生の安定性が改善されることがあります。

[自動]：通常はこの設定にします。本機は自動的にスクリーンミラーリングに最適な周波数を選びます。

[CH 1] / [CH 6] / [CH 11]：送信チャンネルを固定します。ワイヤレス接続が一番安定するチャンネルを選びます。

■ [接続サーバー設定]

接続されているホームネットワークサーバーを表示するかどうかを設定します。

■ [自動レンダラーアクセス許可]

[入]：新しく検出されたホームネットワークコントローラーからの自動アクセスを許可します。

[切]：この機能を使いません。

■ [レンダラーアクセス制御設定]

ホームネットワークコントローラー対応製品のリストが表示され、リストのコントローラーからのコマンドを受け入れるかを設定します。

■ [外部機器からの操作]

[入]：本機をホームオートメーションコントローラーで操作できるようになります。

[切]：この機能を使いません。

■ [リモート起動]

[入]：スタンバイ状態のときに、ネットワークにつながっているモバイル機器を使って本機の電源を入れることができます。

[切]：ネットワークにつながれた機器で本機の電源を入れることはできません。



■ [入力スキップ設定]

入力切換+/-ボタンを押して入力を選ぶときに、不要な入力をスキップすることができます。

[スキップしない]：選んだ入力をスキップしません。

[スキップする]：選んだ入力をスキップします。

ご注意

ホーム画面表示中に入力切換+/-ボタンを押すと、[スキップする] に設定されている入力アイコンは薄く表示されます。



■ [かんたん設定]

[かんたん設定] を使って本機の初期設定と基本的なネットワーク設定をします。画面の指示に従ってください。



■ [かんたんネットワーク設定]

[かんたんネットワーク設定] を行い基本的な通信設定をします。画面の指示に従ってください。



■ [設定初期化]

■ [お買い上げ時の状態に設定]

設定グループごとにお買い上げ時の設定に戻します。選んだグループのすべての項目がお買い上げ時の設定に戻るので、ご注意ください。

■ [個人情報の初期化]

本機に保存された個人情報を消去します。

ご注意

本機を破棄したり、譲渡、売却する場合、安全保護のためすべての個人情報を削除してください。ネットワークサービスの使用後はログアウトなど適切な処置を実行してください。

オプションメニューを使う

オプションボタンを押すと、さまざまな設定や再生操作ができます。表示されるオプションは、使用状況によって異なります。

共通オプション

【画音同期調整】

音声と映像の時間的ずれを調節します
(33ページ)。

【サウンドフィールド】

サウンドフィールドの設定を切り換えます
(8ページ)。

【ナイトモード】

ナイトモードを入／切します (8ページ)。

【ボイス】

人間の声の周波数帯域を增幅して、よりはっきりと聞きやすくなります (8ページ)。

【リピート設定】

リピート再生を設定します。

【再生/再生停止】

再生を開始または停止します。

【はじめから再生】

始めから再生し直します。

【カテゴリー切換】

【USB】または【Home Network】入力の 【ミュージック】または 【フォト】のカテゴリーを切り替えます。カテゴリーのリスト表示が使えるときのみこの項目は使えます。

♪【ミュージック】のみ

【シャッフル設定】

シャッフル再生を設定します。

【スライドショーのBGM登録】

スライドショーのBGMとしてUSBメモリーのミュージックファイルを登録します。

📷【フォト】のみ

【スライドショー】

スライドショーを再生します。

【スライドショーの速さ】

スライドショーの速さを設定します。

【スライドショーの効果】

スライドショーの再生方法を設定します。

【スライドショーのBGM】

• [切]：この機能を使いません。

• [My Music (USB)]：【スライドショーのBGM登録】に登録されたミュージックファイルを設定します。

【表示切換】

【グリッド表示】と【リスト表示】を切り替えます。

【回転 (左)】

写真を左回りに90度回転させます。

【回転 (右)】

写真を右回りに90度回転させます。

【表示】

選んだ写真を表示します。

音声と映像のずれを調整する

【画音同期調整】

テレビ画面の映像と音声にずれを感じるときに、次の入力のずれを調整できます。入力によって、設定のしかたが異なります。

【HDMI1】または【HDMI2】、 【HDMI3】入力を選んだとき

1 オプションボタンを押す。

オプションメニューがテレビ画面に表示されます。

2 \uparrow/\downarrow ボタンを押して【画音同期調整】を選び、決定ボタンを押す。

3 \leftarrow/\rightarrow を押してずれを調整し決定を押す。

0 msから300 msまで25 msずつ調整できます。

【TV】入力を選んだとき

1 オプションボタンを押す。

前面表示窓に「SYNC」と表示されます。

2 決定ボタンまたは \rightarrow ボタンを押す。

3 \uparrow/\downarrow ボタンを押してずれを調整し決定を押す。

0 msから300 msまで25 msずつ調整できます。

4 オプションボタンを押す。

「SYNC」が前面表示窓から消えます。

他の機能

スマートフォン やタブレットな どのモバイル機 器から本機を操 作する (SongPal)

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。お手持ちのスマートフォンやタブレットで、Google Play™ (Playストア) またはApp StoreでSongPalを検索して、ダウンロードしてください。

SongPalを使って、以下のことができます。

- 本機の入力、音量、よく使う設定の変更ができる。
- ホームネットワークサーバーやスマートフォン上にある音楽コンテンツを、本機で楽しめる。
- スマートフォンのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しめる。
- WPS機能対応のWi-Fiルーターがなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続を設定できる。
- SongPal Link機能を使用することができる (35ページ)。

ご注意

- ・下記の操作を行う前に、[Bluetoothモード] が [受信] になっていることを確認してください (26ページ)。
- ・本機は SongPalバージョン3.0以降に対応しています。
- ・SongPalは、本機のネットワーク機能 (15ページ) とBLUETOOTH機能 (10ページ) を使用します。
- ・SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

Androidを使うとき

1 モバイル機器でSongPalアプリを検索、ダウンロード、起動する。

2 本機とモバイル機器をBLUETOOTH接続 (10ページ) またはネットワークに接続 (15ページ) する。

ちょっと一言

ネットワークに接続する場合は、本機を接続している同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiで接続します。

3 SongPalの画面の指示にしたがって操作する。

iPhone/iPodを使うとき

1 iPhone/iPodでSongPalアプリを検索、ダウンロード、起動する。

2 本機とiPhone/iPodをBLUETOOTH接続 (10ページ) またはネットワークに接続 (15ページ) する。

ちょっと一言

ネットワークに接続する場合は、本機を接続している同一のネットワークにiPhone/iPodをWi-Fiで接続します。

3 SongPalの画面の指示にしたがって操作する。

複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）

SongPalを使って、パソコンやスマートフォンに保存した音楽や音楽配信サービスを、複数の部屋で同時に聞くことができます。

SongPal Linkについて詳しくは、下記のURLをご参考ください。

<http://www.sony.net/nasite>

“ブラビアリンク”

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御が搭載されたソニー製のテレビまたはブルーレイディスクレコーダー™、AVアンプでご利用になります。

HDMI機器制御はHDMI（High-Definition Multimedia Interface）用のCEC（Consumer Electronics Control）の相互制御機能です。

ご注意

- HDMI接続後、“ブラビアリンク”を使う前に、接続したすべての機器と本機の電源が入っていることを確認してください。

• 接続した機器の設定によってはHDMI機器制御機能がうまく使えないことがあります。接続機器の取扱説明書をご覧ください。

• 下記の機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

“ブラビアリンク”の準備をする

“ブラビアリンク”対応機器をHDMIケーブルで接続してテレビに接続した機器の設定を完了すると、リモコンで接続されたすべての機器を操作できます。

“ブラビアリンク”を使うには、接続された機器のHDMI機器制御機能を「入」にします。HDMI機器制御機能対応のソニー製のテレビを使っている場合、それに合ったテレビの設定を有効にすることで本機と接続された機器のHDMI機器制御機能を自動的に設定することができます。

1 本機およびテレビ、その他の機器がHDMIで接続されていることを確認してください。

2 本機およびテレビ、その他の機器の電源を入れます。

3 テレビのHDMI入力に変えて、本機の画像を表示します。

4 HDMI機器のリストがテレビ画面に表示されます。次に、テレビのメニューを使って接続された機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。

本機と接続された機器のHDMI機器制御機能は自動的に「入」になっています。設定が完了すると「DONE」が前面表示窓に表示されます。

ご注意

- ・テレビまたは接続された機器の設定については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- ・上記の設定が働かないときは、[HDMI機器制御]機能を手動で設定できます。詳しくは[HDMI設定]をご覧ください(28ページ)。

“プラビアリンク”を使う

HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような操作を行うことができます。
[HDMI機器制御]を[入]にしてください(28ページ)。

電源を切る

テレビの電源を切ると、本機に接続されている機器の電源も連動して切れます。

ご注意

- ・本機で音楽が再生されているときは、本機の電源は自動的には切れません。

- ・接続した機器の設定によっては、本機の電源が自動的に切れない場合があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

- ・電源を切る機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

ワンタッチプレイ

コンテンツをHDMIケーブルで接続された機器(ブルーレイディスク™レコーダーや“PlayStation®4”など)で再生する場合、本機とテレビは自動的に電源が入り、本機の入力は正しいHDMI入力に変わります。

ご注意

- ・この機能は機器によっては使えない場合もあります。
- ・本機をスタンバイ状態で[スタンバイスルー]を[自動]または[入](28ページ)に設定し、接続された機器のコンテンツを再生すると、本機がスタンバイ状態のまま音声と画像のみがテレビから出力されます。
- ・ワンタッチプレイ機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

システムオーディオコントロール

テレビを見ているときに本機の電源を入れると、自動的に本機のスピーカーから音声が出力されます。

テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

最後にテレビを見たときに、テレビの音声が本機のスピーカーから出力されていた場合、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入ります。

テレビで二画面機能（P&P）を使っているときにもこの機能は使えます。

- [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] の入力が選ばれているときは、音声は本機から出力されます。
- [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] 以外の入力が選ばれて、二画面機能を使っているときは、音声はテレビからのみ出力されます。二画面機能を終了すると、音声は本機から出力されます。

ご注意

- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は前面表示窓の数字と異なる場合があります。
- システムオーディオコントロール機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

オーディオリターンチャンネル（ARC）

HDMIケーブル1本を使うだけで本機でテレビの音声が楽しめます。設定については「オーディオリターンチャンネル(ARC)」(28ページ)をご覧ください。

ご注意

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

エコーキャンセルシンク

テレビを見ながらソーシャルビューリング機能を使っているとき、エコーを削減できます。会話がより明瞭になります。

- 入力が [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] のときは、入力は自動的に [TV] に変わります。ソーシャルビューリング機能とテレビ番組の音声は本機から出力されます。
- 現在、選ばれている入力が [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] 以外のとき、ソーシャルビューリングと再生コンテンツの音声はテレビから出力されます。

ご注意

- この機能は、ソーシャルビューリング機能対応のテレビで使えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機から音声が出力されるようにテレビの音声出力が設定されていることを確認してください。
- エコーキャンセルシンク機能はソニー独自の機能です。この機能はソニー以外の機器では使えません。

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール対応テレビを本機に接続すると、テレビにインターネットで使えるアプリのアイコンが表示されます。

テレビのリモコンで本機の設定（入力、サウンドフィールドなど）を切り換えられます。

ご注意

- オーディオ機器コントロールを使う場合はテレビがインターネットに接続されている必要があります。
- オーディオ機器コントロールはソニー独自の機能です。この機能はソニー以外の機器では使えません。

オートジャンルセレクター

オートジャンルセレクターは見ている番組の情報（EPG情報）を自動的に検出し、サウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせます。この機能はテレビと（HDMI 入力 1／2／3端子に接続された）機器がオートジャンルセレクターに対応している場合にのみ働きます。

この機能を使うには、以下の設定をします。

- [HDMI 設定] の [HDMI 機器制御] を [入] にする（28 ページ）。
- [オートジャンルセレクター] を [入] にする（26 ページ）。
- サウンドフィールドを [ClearAudio+] にする（8 ページ）。

ご注意

オートジャンルセレクター機能はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

HDMI接続についてのご注意

- イーサネット対応ハイスピード HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMI ケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dおよび4Kコンテンツが正しく表示できない場合があります。
- HDMI認証を受けたHDMIケーブルをご使用ください。ケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはお勧めしません。
- HDMI端子から送信された音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は接続された機器によって圧縮されることがあります。
- サンプリング周波数または再生機器からの音声出力信号の周波数を変えると、音声が乱れことがあります。
- [TV] 入力が選ばれているときは、最後に選ばれたHDMI 入力 1／2／3端子のどれかを経由した映像信号がHDMI 出力（ARC）端子から出力されます。
- 本機はDeep Colorおよび“x.v.Color”、3D、4K送信に対応しています。

- 3Dコンテンツを楽しむには、3D対応テレビとビデオ機器（ブルーレイディスク™レコーダー、「PlayStation®4」など）をイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルで本機に接続し、3Dメガネをかけて、3D対応のブルーレイディスク™などを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、本機に接続されたテレビやプレーヤーが4Kコンテンツに対応していないかもしれません。

デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（付属）でつなぎます。お使いのテレビのHDMI端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（28ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

2か国語放送の音声を切り換える

お好みの音声信号が前面表示窓に表示されるまで音声切換ボタンを繰り返し押す。

- ・「MAIN」：主音声を再生します。
- ・「SUB」：副音声を再生します。
- ・「MN/SB」：主音声と副音声をミックスして再生します。

ご注意

2か国語放送でない場合に音声切換ボタンを押すと、本体前面表示窓に「NOT USE」が表示されます。

本体のタッチキーを動作しないようにする（チャイルドロック）

子供のいたずらなどによる誤操作をふせぐため本体のタッチキー（I/□ボタン以外）を動作しないようにすることができます。

この操作をするときは本体のタッチキーを使ってください。

INPUTタッチキーを押したまま、タッチキー VOL-、VOL+、VOL-の順番に押します。

前面表示窓に「LOCK」が表示されます。

リモコンでのみ本機の操作ができます。

キャンセルするには、INPUTタッチキーを押したまま、タッチキー VOL-、VOL+、VOL-の順番に押します。

「UNLCK」が前面表示窓に表示されます。

明るさを調整する

前面表示窓とLED表示（青色）の明るさを調節できます。

本体表示ボタンを繰り返し押す。

「OFF」または「DIM1」、「DIM2」が選べます。

*「DIM1」と「DIM2」の明るさは同じです。

ご注意

「DIM2」を選ぶと前面表示窓が消灯します。いずれかのボタン／タッチキーを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。前面表示窓が消えない場合もあります。

スタンバイ状態時の消費電力をおさえる

この機能を使うには、以下の設定をします。

- [Bluetoothスタンバイ] を [切] にする (27ページ)。
- [HDMI設定] の [HDMI機器制御] を [切] にする (28ページ)。
- [高速起動／ネットワークスタンバイ] を [切] にする (29ページ)。
- [リモート起動] を [切] にする (31ページ)。

使用上のご注意

本機の起動と終了について

本機はシステム全体の最適化を図るために、電源ボタンを押してから、実際に起動するまでと実際に電源が切れるまでにしばらく時間がかかります。電源が切れる前にコンセントから電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

過熱について

操作中、過熱しますが故障ではありません。本機を大音量で長時間続けて使うと、キャビネット上面、側面、底面の温度が大幅に上昇します。やけどの原因となりますのでキャビネットを触らないでください。

設置について

- 本機の前に物を置かないでください。
- 発熱する機器の上に本機を置かないでください。
- 風通しの良い場所に設置してください。風通しが悪いと本機内部の過熱の原因となります。
- ラジエターや空気孔など発熱源の近く、または直射日光が当たる場所、ほこりの多い場所、振動、衝撃を受けるような場所に置かないでください。
- 本機を傾いた状態で置かないでください。本機は水平な状態で使うように作られています。

- 前面パネルの前に金属製の物を置かないでください。電波をさえぎるおそれがあります。
- 心臓ペースメーカーまたは他の医療用機器を使っている場合は、無線LAN機器使用前に医師または医療用機器製造元にご相談ください。
- 特殊な塗装（ワックス、油脂、溶剤など）がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。
- 本機の底面にあるスピーカーを傷つけないように設置してください。
- 本機のスピーカーは磁気遮へいがされています。
磁気カードやCRTタイプのテレビなどを本機の上、または近くに置かないでください。

操作について

その他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源プラグを抜いてください。

映画や音楽を楽しむときは

映画や音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

音量調節について

入力レベルの小さい、または音声信号のない部分を再生しているときに音量を上げないでください。音量が急に最大になった場合、スピーカーが破損するおそれがあります。

お手入れのしかたについて

キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。

部品交換について

本機を修理に出すときに、交換した部品は再利用目的で業者が持ち帰る場合があります。

本機の使用上の注意事項

注意：本機は静止画像やOSD表示をテレビ画面に送り、そのまま表示させ続けることができます。このような静止画像やOSD表示を長い時間テレビ画面に表示し続けると、テレビ画面が修復できない損傷を受けることがあります。特にプレスマーテレビやプロジェクションテレビなどは影響を受けやすいので、ご注意ください。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでインターネットに接続してご使用になる場合、ソフトウェアを自動で最新にアップデート（更新）する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追加されたり、より便利かつ安定してご使用になります。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたくない場合は、スマートフォン／タブレットにインストールしたSongPalを使って、本機能を無効にすることができます。

ただし、本機能を無効にしても、安定してご使用いただくため等により、ソフトウェアを自動でアップデートすることができます。

また、本機能を無効にしても、お客様の操作で、システムソフトウェアをアップデートすることは可能です。

詳しい設定方法は「設定メニューを使う」（22ページ）をご確認ください。ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

第三者が提供するサービスに関する免責事項

第三者が提供するサービスは、予告なく、変更・停止・終了することがあります。ソニーは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられことがあります。

- 本機を分解／改造すること

お買い上げの本機についてのご質問、問題点についてはお近くのソニー相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

著作権／商標について

- 本機はドルビー* デジタルおよびドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS** および DTS 96/24 デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。 Dolby、ドルビー、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS の特許については下記をご覧ください。
<http://patents.dts.com>.
 DTS Licensing Limited からの実施権に基づき製造されています。 DTS、DTS-HD、シンボル、および DTS とシンボルの組み合わせは DTS, Inc. の登録商標です。 ©DTS, Inc. All Rights Reserved.

- 本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載しています。 HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

- “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- “PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®、Wi-Fi Alliance® および Wi-Fi CERTIFIED Miracast® は Wi-Fi Alliance® の登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™、Wi-Fi Protected Setup™ および Miracast™ は Wi-Fi Alliance® の商標です。
- Nマークは NFC Forum, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Android™ は Google Inc. の商標です。
- Google Play™ は Google Inc. の商標です。
- Google Cast™ は Google Inc. の商標です。
- “Xperia” は Sony Mobile Communications AB の商標です。

- BLUETOOTH®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- “DSEE HX”はソニー株式会社の商標です。
- 本機はFraunhofer IIS および Thomson のMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Windows Media は米国および／またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。
- 本製品にはMicrosoft Corporation の知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- 1995-2013 Opera® Devices SDK はOpera Software ASA の登録商標です。
- Apple、Appleロゴ、iPhone、iPod、iPod touch、及びRetinaは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- 「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- 「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod、又は iPhone と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

対応しているiPod/iPhone

BLUETOOTH 技術は、以下のモデルに対応しています。本機につないで使用する前に iPod/iPhone を最新のソフトウェアにアップデートしてください。

- iPhone
 - iPhone 6 Plus/iPhone 6/
 - iPhone 5s/iPhone 5c/
 - iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/
 - iPhone 3GS
- iPod touch
 - iPod touch (5th generation) /
 - iPod touch (4th generation)
- その他すべての商標はそれぞれの所有者の商標です。

O POWERED
BY OPERA®

- “ClearAudio+”はソニー株式会社の商標です。
- “x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

- ・その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

GPL/LGPL 適用ソフトウェア およびその他のオープンソース ソフトに関するお知らせ

本機には、GNU General Public License (“GPL”) または GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様には GPL/LGPL の条件に従って、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて、詳しくは本機の【設定】メニューの【本体設定】の【ソフトウェアライセンス】をご覧ください。

また、本機に含まれるGPL/LGPLの適用を受けるソフトウェアのソースコードは、Webで提供しております。ダウンロードするには、以下のURLへアクセスしてください。
URL : <http://oss.sony.net/>
Products/Linux

ただし弊社では、このソースコードの内容に関する質問には一切お答えできません。



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと
火災・感電により**死亡**や
大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- ・電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- ・製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- ・重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- ・熱器具に近づけない。加熱しない。
- ・移動させるときは、電源プラグを抜く。
- ・電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止



禁止

内部に水や異物を入れないよう にする

水が入ると火災や感電の原因となることがあります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置いたり、本機を水のかかる場所に置かないでください。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



禁止



指示

本機は室内専用です

乗物の中や船舶の中などで使用しないでください。



指示

キャビネットを開けたり、分解 や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと
**火災・感電により死亡や
大けがの原因となります。**

雷が鳴り出したら、本体や電源
プラグには触れない
感電の原因となります。



接触禁止

本機は国内専用です

交流 100V の電源でお使い
ください。

海外などで、異なる電源電圧
で使用すると、火災・感電の
原因となります。また、コンセントの
定格を超えて使用しないでください。



指示



禁止

可燃ガスのエアゾールやスプ レーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性
ガスを本機に使用すると、
モーターやスイッチの接点、
静電気などの火花、高温部品
が原因で引火し、爆発や火災が発生す
るおそれがあります。



禁止



指示

電源プラグは抜き差ししやすい コンセントに接続する。

異常が起きた場合に電源プラ
グをコンセントから抜いて、
完全に電源が切れるように、
電源プラグは容易に手の届く
コンセントにつないでください。

本体の電源ボタンを切っただけでは、
完全に電源から切り離せません。



指示



禁止

病院などの医療機関内、医療用
電気機器の近くではワイヤレス
機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用
電気機器の誤作動による事故
の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電
波障害などが発生した場合は、
ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤作動
による事故の原因となるおそれ
があります。



禁止

設置について

障害防止のため、この機器
は、設置説明に従ってキャビ
ネットにしっかりと取り付け
る必要があります。



指示

本機にテレビを載せた状態で、
寄りかかったりぶら下がらない

本機やテレビが落下して、大
けが、死亡などの原因となる
ことがあります。



禁止



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと
火災・感電により**死亡**や
大けがの原因となります。

テレビや接続機器を接続したまま本機を移動させない

本機を移動させるとときは、必ずテレビや接続機器をはずしてください。

テレビや接続機器を接続したまま本機を移動させると、テレビや本機が倒れ、大けがの原因となります。



禁止

テレビと本機の間に電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。
 - 本機を移動させるとときは、電源コードおよび接続ケーブルが本機の下にからまないようにしてください。
- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。



禁止

本機の上に乗ったり、座ったりしない

お子様が本機の上に乗ったり、座ったりすると、ガラスが割れる、本機やテレビが落下するなどの事態が発生し、大けがや死亡の原因となります。



禁止

⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり
周辺の家財に損害を与えることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

本機に新聞紙、テーブルクロス、カーテン、布などをかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上、または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災の原因となることがあります。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。火災の原因となります。

本機を本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。



禁止

大音量で長時間続けて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



禁止

安定した場所に置く

水平で丈夫な場所に置いてください。ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

USB の定格の記載位置について

定格電流は、本体の後面に表示しています。

コード類は正しく配置する

AVケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

下記の注意事項を守らないとけがをしたり
周辺の家財に損害を与えたりすることが
あります。



移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

移動させるとき、すべてのAVケーブルや電源コードを抜く

AVケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。



指示

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま、お手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

テレビを固定する

固定しないと、本機やテレビが落下してけがの原因となることがあります。



注意

テレビ転倒防止用ベルトを取り付ける

転倒防止のために、テレビとテレビ台にテレビ転倒防止用ベルト（付属）を取り付けて固定してください。（本機には固定できません。）



注意

取り付けについての詳細は、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビ以外の物を置かない

落ちてけがの原因となることがあります。



禁止

設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気をつけください。

テレビのスタンドが本機からはみ出した状態で置かない

テレビが落下して、けがの原因となることがあります。



指示

⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり
周辺の家財に損害を与えることがあります。

ガラスに関するご注意

加熱した鍋、湯沸しなど熱いものを置かない

ガラス天板が割れたりして、けがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

ガラス天板に強い衝撃を与えない

本機には強化処理を施したガラスを天板に使用していますが、絶対に割れないわけではありません。割れると、破片がけがの原因となりますので下記のことをお守りください。

- ・ガラス天板をたたいたり、先端のとがったものを落とすなど、強い衝撃を与えないでください。
- ・鋭利なもので傷をつけたり、ガラス天板を突いたりしないでください。
- ・収納機器を設置するときに、ガラス天板の端面にぶつけないでください。

割れたガラスは素手でさわらない

万が一ガラスが割れた場合は、割れたガラスを素手でさわらない。けがの原因になることがあります。



禁止

総積載量についてのご注意

50kg以上のものを載せないでください。指定の質量を超えると、ガラス天板や本機が壊れることがあります。



注意

強化ガラスの特性についてのご注意

- ・強化ガラスは、普通のガラスより強い一方で、割れるときは、全体が粉々になります。
- ・強化ガラスは、極めてまれに、自然に割れることがあります。本機のガラスは選別品ですが、それでもなお、絶対に割れないわけではありません。

設置、移動の際のご注意

設置、移動の際は本機を傾けたりひっくり返さないようにしてください。ガラス天板の落下によるけがや破損の原因となります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることがあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

→ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



指示

→ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

電池を火のそばや直射日光のあたるところなど、高温の場所で使用、保管、放置しないでください。破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混せて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ マンガン電池をお使いください。
電池の品番を確かめ、お使いください。



禁止

リモコンの電池フタを開けて使用しない

リモコンの電池フタを開けたまま使用すると、漏液、発熱、発火、破裂などの原因となることがあります。

→ マンガン電池を使用し、フタを閉めて使用してください。



指示

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

故障かな？と思つたら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

本体の操作

電源が入らない。

→ 電源コードがしっかりと差し込まれているかどうか確認してください。

リモコンで操作できない。

→ リモコンと本体との距離を近づけて操作してください。
→ リモコンの電池が消耗していないか確認してください。

本機の電源が自動的に切れてしまう。

→ [自動電源オフ] が働いています。[自動電源オフ] を [切] にしてください (29ページ)。

本機が正常に作動しない。

→ コンセントから電源コードを抜き、数分後にもう一度つなぎ直してください。

メッセージ

テレビ画面に [ネットワーク上に新しいソフトウェアバージョンが見つかりました。「ソフトウェアアップデート」からアップデートを行ってください。] と表示される。

→ [ソフトウェアアップデート] (23ページ) を行って、最新のソフトウェアに更新してください。

前面表示窓に「PRTCT」、「PUSH」、「POWER」が交互に表示される。

→ 本体のI/Offタッチキーを押して本機の電源を切れます。「STBY」の表示が消えてから、コンセントから電源コードを抜いてください。その後、本体の通気孔がふさがれていなかを確認してください。電源コードをつなぎ直して、本機の電源を入れ直してください。それでも正常に動作しない場合は、お近くのソニー販売店にご相談ください。

本体のいずれかのタッチキーを押したときに、前面表示窓に「LOCK」が点滅します。

→ チャイルドロックをオフにしてください (40ページ)。

メッセージが表示されず、△ がテレビ画面全体に表示される。

→ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

サウンド効果ボタンを押すと、前面表示窓に「NOT USE」が表示される（64ページ）。

→ BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホンなど）が本機に接続されていて送信状態のときはサウンド効果の設定は変えられません。

本体の前面表示窓に「BT TX」と表示される。

→ リモコンの受信／送信 ⓧ ボタンを押して〔Bluetoothモード〕を〔受信〕に切り換える。「BT TX」と表示されている場合は、〔Bluetoothモード〕が〔送信〕になっています（13ページ）。リモコンの受信／送信 ⓧ ボタンを押すと〔Bluetoothモード〕が〔受信〕に切り換わり、本体の前面表示窓に選択している入力が表示されます（26ページ）。

映像

映像が出ない、正しく出力されない。

→ 正しい入力を選ぶ（6ページ）。

→ INPUTタッチキーを押しながら、タッチキー VOL+、VOL-、VOL+の順番に押し、映像出力解像度をリセットして最小にしてください。

HDMI接続時に映像が出ない。

→ HDCP 2.2対応機器を接続するときは、機器をHDMI 入力 1端子に、テレビをHDMI 出力（ARC）端子に接続したことを確認してください。

→ HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）準拠ではない入力機器に本機が接続されています。この場合、接続された機器の仕様を確認してください。

→ HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。

HDMI 入力 1／2／3端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない。

→ テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください（70ページ）。

HDMI 入力 1／2／3端子からの4Kコンテンツがテレビ画面に表示されない。

→ テレビまたはビデオ機器によっては4Kコンテンツが表示されない場合があります。テレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。

→ イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。

本機がスタンバイ状態のときに、テレビ映像が見れない。

- 本機がスタンバイ状態のとき、本機の電源が切れる前に選んだHDMI機器からの映像が表示されます。他の機器からのコンテンツをご覧になっている場合、コンテンツをその機器で再生し、ワンタッチプレイで操作をするか、本機の電源を入れて使いたいHDMI機器を選んでください。
- [HDMI設定] の [スタンバイスルー] を [入] にしてください (28ページ)。

テレビ全体に表示されない。

- [映像設定] の [テレビタイプ] の設定を確認してください (24ページ)。
- ディスクに記録されている映像の縦横比が固定されていないか確認してください。

HDMI端子につないだ機器の映像が乱れる。

- HDMI端子につないだ機器の映像が乱れることがあります。その場合は、[Video Direct] を [入] に設定してください (25ページ)。

音声

本機につながれた機器から音が出ない、または音が小さい。

- 音量 + ボタンを押して音量を確認してください (65ページ)。

→ 消音ボタンまたは音量+ボタンを押して消音を無効にしてください (65ページ)。

- 入力音源が正しく選ばれているか確認してください。入力切換+/-ボタンを繰り返し押して、他の入力音源が正常かどうかお試しください (6ページ)。
- ケーブルがしっかりと正しく差し込まれているか、本機とすべての接続機器との接続を確認してください。

テレビから音声が出ない。

- 入力切換+/-ボタンを繰り返し押して [TV] 入力を選んでください。
- 本機とテレビをつなぐHDMIケーブルまたは光デジタル音声ケーブルの接続を確認してください (別冊のスタートガイドの、手順1をご覧ください)。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本体の前面表示窓に「MUTING」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビのスピーカーの設定をオーディオシステムにしてください。テレビの設定については、テレビの取扱説明書のテレビ設定をご覧ください。
- テレビの音量を上げるか、消音を無効にしてください。

→ オーディオリターンチャンネル対応のテレビとHDMIケーブルで接続している場合は、テレビのARC対応のHDMI入力端子に接続されていることを確認してください（別冊のスタートガイドの、手順1をご覧ください）。

→ テレビがオーディオリターンチャンネル対応でない場合、音声を出力するにはHDMIケーブルとともに光デジタル音声ケーブルもつないでください（別冊のスタートガイドの、手順1をご覧ください）。

テレビと本機と両方から音声が出来る。

→ 本機またはテレビの音声どちらかを切ってください。

オーディオリターンチャンネルを使っているときに、本機のHDMI出力（ARC）端子に接続したテレビの音声が出ない。

→ [本体設定] の [HDMI設定] の [HDMI機器制御] を [入] にしてください（28ページ）。また、[本体設定] の [HDMI設定] の [オーディオリターンチャンネル（ARC）] を [自動] にしてください（28ページ）。

→ テレビがオーディオリターンチャンネルに対応しているかどうか確認してください。

→ HDMIケーブルが、テレビのオーディオリターンチャンネル対応の端子に接続されているかどうか確認してください。

外部チューナーなどをつないでいるとき、テレビ番組の音声が正しく出力されない。

→ [本体設定] の [HDMI設定] の [オーディオリターンチャンネル（ARC）] を [切] にしてください（28ページ）。

→ 接続を確認してください（別冊のスタートガイドをご覧ください）。

ハム音またはノイズがひどい。

→ すべての機器がしっかりと接続されているかどうか確認してください。

→ テレビからオーディオ機器を離して置いてください。

→ プラグや端子が汚れている可能性があります。アルコールを少し含ませた柔らかい布で拭いてください。

ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネル音声が再生されない。

→ 再生中のDVDなどがドルビーデジタルまたはDTSフォーマットで録画されているかを確認してください。

→ 機器がHDMI接続で本機につながれているかどうかを確認してください。HDMI接続では高ビットレートオーディオ（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）およびDSD、マルチリニアPCMが再生できます。

つないでいる機器の音声が歪む。

- [入力レベル抑制設定 – Analog] (26ページ) を設定して接続した機器の入力レベルを下げてください。

再生する

ファイル名が正しく表示されない。

- 本機で表示できる文字はISO 8859-1準拠のフォーマットの文字のみです。それ以外のフォーマットの文字は違って表示されることがあります。
- 書き込み用ソフトウェアによっては入力された文字が違って表示されることがあります。

再生がファイルの最初から始まらない。

- つづき再生が選ばれています。オプションボタンを押して [はじめから再生] を選び、決定ボタンを押してください。

再生が前回停止した位置から始まらない。

- 以下の場合、ファイルによってはつづき再生が解除されます。
 - USB機器を取りはずしたとき
 - ほかのコンテンツを再生したとき
 - 本機の電源を切ったとき

スクリーンミラーリングを使っているとき再生が不安定になる。

- スクリーンミラーリングは使用環境によって、電波を発するその他の無線LAN機器または電子レンジなどに影響されます。それらの機器は本機とスクリーンミラーリング対応機器から離して置くか、電源を切ってください。
- 距離、機器間の障害物、機器の種類、機器の配置、電波障害の有無などの使用環境によって、通信速度が影響を受けることがあります。回線の混雑などによっても通信できなくなることがあります。

USB機器

USB機器が認識されない。

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が \downarrow (USB)端子にしっかりと接続されているかどうか確認してください。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているかどうか確認してください。
- USB機器がハブを通してつながれているときは、ハブから取りはずし、本体に直接つなぎ直してください。

“プラビアリンク” ([HDMI 機器制御])

- [HDMI機器制御] (“プラビアリンク”) が動かない。**
- HDMI接続を確認してください (別冊のスタートガイドの、手順1をご覧ください)。
 - [HDMI機器制御] が [入] に (28ページ) なっているか確認してください。
 - HDMIの接続を変えたときは、本機の電源を切って、入れ直してください。
 - 停電がおきたときには、[HDMI 機器制御] を [切] にして、その後 [HDMI機器制御] を [入] に (28ページ) してください。
 - 以下を確認して、接続機器の取扱説明書をご覧ください。
 - ・接続機器が [HDMI 機器制御] に対応しているか。
 - ・接続機器の [HDMI 機器制御] の設定が正しいか。
 - 電源プラグを接続／切断したときは15秒以上たってから操作を始めてください。
 - HDMIケーブル以外のケーブルでビデオ機器の音声出力を本機と接続したときは、“プラビアリンク”では音声が出力されないことがあります。その場合は、[HDMI機器制御] を [切] にするか、ビデオ機器の音声出力端子とテレビを直接接続してください (28ページ)。

→ “プラビアリンク”機能で操作できる機器の数や種類はHDMI CEC規格によって上限があります。

- レコーディング機器 (ブルーレイディスク™レコーダー、DVDレコーダーなど) : 3機器まで
- 再生機器 (ブルーレイディスク™プレーヤー、DVDプレーヤーなど) : 3機器まで (本機を含む)
- チューナー関係の機器化 : 4機器まで
- オーディオシステム (レシーバー／ヘッドホン) : 1機器まで (本機を含む)

ネットワーク接続

ネットワークにつながらない。

- ネットワーク接続 (15ページ) とネットワーク設定 (30ページ) を確認してください。

無線LAN接続

[WPS (プッシュボタン方式)]を行ったあとにパソコンをインターネットにつなぐことができない。

- ルーターの設定をする前にWi-Fi保護設定機能を使うと、ルーターのワイヤレス設定が自動的に変わることがあります。その場合はパソコンのワイヤレス設定を変えてください。

本機をネットワークにつなげない、またはネットワーク接続が不安定になる。

- 無線LANルーターの電源がオンになっていることを確認してください。
- ネットワーク接続（15ページ）とネットワーク設定（30ページ）を確認してください。
- 壁の素材、ラジオ電波の状態、本機と無線LANルーター間の障害物などの使用環境によって、通信距離が短くなることがあります。本機と無線LANルーターを近づけてください。
- 電子レンジ、BLUETOOTH機器、デジタルコードレス機器などの2.4 GHzの周波数帯域を使う機器は、通信に影響を与えることがあります。それらの機器を遠ざけるか、電源を切ってください。
- 特に本機のBLUETOOTH機能を使っているときは無線LAN接続が使用環境により不安定になることがあります。使用環境を検討してください。

ワイヤレスルーターがワイヤレスネットワークのリストに表示されない。

- 戻るボタンを押して前の画面に戻り、[無線LAN設定（内蔵）]をお試しください。それでもワイヤレスルーターが検出されないときは、ネットワークリストから[新しい接続先の登録]を選んでから[手動登録]を選び、ネットワーク名（SSID）を手動で入力します。

BLUETOOTH機器

BLUETOOTH接続が完了しない。

- LED表示が（青色）点灯していることを確認してください（62ページ）。
- 接続しようとしているBLUETOOTH機器の電源が入っていること、BLUETOOTH機能が有効になっていることを確認してください。
- BLUETOOTH機器を本機に近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器をペアリングしてください。最初にBLUETOOTH機器を使って本機とのペアリングを解除しなくてはならない場合もあります。
- [Bluetoothモード]を[受信]または[送信]にしてください（26ページ）。

ペアリングできない。

- BLUETOOTH機器を本機に近づけてください。
- 本機の近くに他のBLUETOOTH機器があるときはペアリングができないこともあります。その場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- BLUETOOTH機器から本機の設定を削除し、もう一度ペアリングを行ってください（10ページ）。

NFC機能が使えない。

- BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）の機器は、NFC機能が使えません。
- BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）で音楽を聞くには、「BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く」（13ページ）をご覧ください。

BLUETOOTH接続ができない。

- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください（10ページ）。

音が出ない。

- 本機がBLUETOOTH機器の距離が離れすぎていないこと、本機がWi-Fiネットワーク、その他2.4 GHzワイヤレス機器または電子レンジの影響を受けていないか確認してください。

→ 本機とBLUETOOTH機器を正しく接続しているかどうか確認してください。

→ 本機とBLUETOOTH機器をペアリングしてください。

→ 本機を金属製のもの、表面から遠ざけてください。

→ [Bluetooth Audio] 入力が選ばれていることを確認してください。

→ BLUETOOTH機器を適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本体で音量調節します。

音が途切れたりゆれる、接続が切れる。

→ 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。

→ 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。

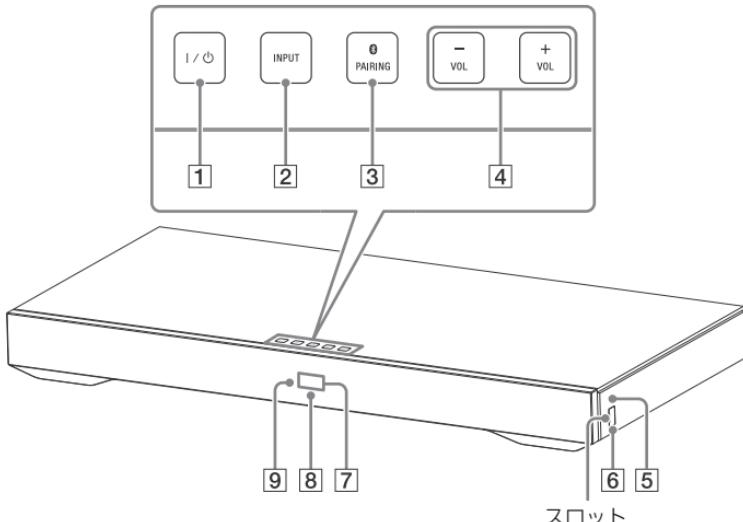
→ 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジなど、電磁波を発生する機器が近くにある場合は、その機器から離してご使用ください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（ ）内のページをご覧ください。

本体

前面/上面/側面



- ① **I/待機 (入／スタンバイ) タッチキー**
電源が入る、またはスタンバイ状態になります。
- ② **INPUT (入力切換) タッチキー**
使いたい機器を選びます。
- ③ **PAIRING (ペアリング) ④ タッチキー**
- ④ **VOL (音量) +/- タッチキー**
- ⑤ **N (Nマーク) (12 ページ)**
NFC対応機器をここに近づけて
NFC機能を有効にします。

- ⑥ **USB (USB) 端子 (6 ページ)**
カバーはスロットにつめをかけて
開けます。
 - ⑦ **前面表示窓**
 - ⑧ **LED 表示 (青色)**
BLUETOOTH状態を表示します。
- | | |
|----------------------|--------|
| BLUETOOTHのペアリング中 | 早く点滅する |
| 本機とBLUETOOTH機器が接続中 | 点滅する |
| 本機とBLUETOOTH機器が接続された | 点灯する |

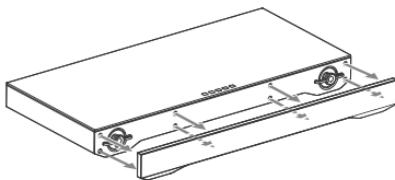
⑨ リモコン受光部

タッチキーについて

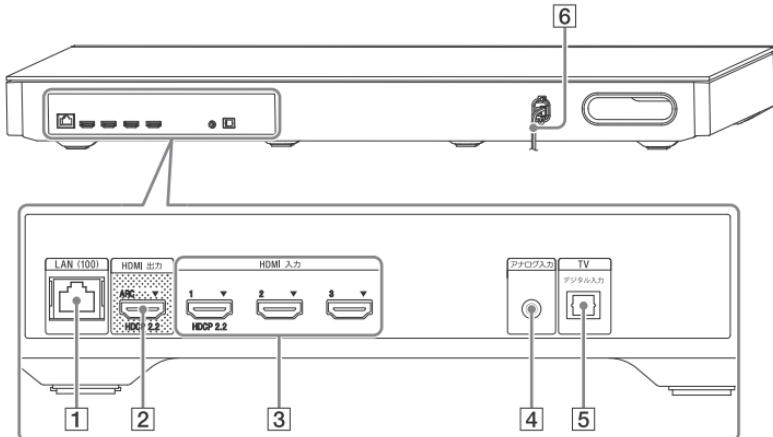
タッチキーは軽く触れるだけで操作できます。強く押さないようにしてください。

グリルフレームを取りはずすには

前面パネルと平行にしてグリルフレームの取りはずし、または取り付けを行ってください。



背面



① LAN (100) 端子

② HDMI 出力* (ARC) 端子

③ HDMI 入力 1* / 2 / 3 端子

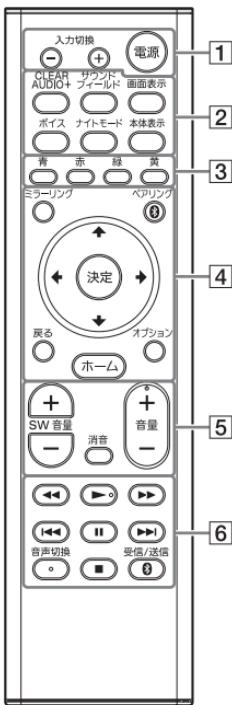
④ アナログ入力端子

⑤ TV (デジタル入力) 端子

⑥ 電源プラグ

* HDMI 入力 1 端子と HDMI 出力端子は HDCP 2.2 プロトコルに対応しています。HDCP 2.2 は、4K 映画などのコンテンツを保護する新しく改良された著作権保護のための技術です。

リモコン



音声切換ボタン、▶ボタン、音量+ボタンには、凸点（突起）が付いています。リモコンを操作するとき、操作の目印として、お使いください。

① 電源ボタン

電源は入る、またはスタンバイ状態になります。

② 入力切換 +/- ボタン (6 ページ)

使いたい機器の入力を選びます。

③ サウンド効果ボタン

「サウンド効果を楽しむ」 (8 ページ) をご覧ください。

CLEARAUDIO+ ボタン、サウンドフィールドボタン、ボイスボタン、ナイトモードボタン

画面表示ボタン

再生情報をテレビ画面に表示します。

本体表示ボタン (40 ページ)

前面表示窓やLED表示（青色）の明るさを調整します。

④ カラーボタン

各種メニューへショートカットできます。

⑤ ミラーリングボタン (20 ページ)

[スクリーンミラーリング] 入力を選びます。

⑥ ペアリング ボタン (11 ページ)

ペアリングモードにします。このボタンは [Bluetoothモード] が [受信] になっていると働きます (26 ページ)。

戻るボタン

ひとつ前の表示画面に戻ります。

オプションボタン (11、12、32、33 ページ)

オプションメニューをテレビ画面または前面表示窓に表示します。(選んだ機能によって表示される場所が異なります。)

ホームボタン (6、9、16、19、22 ページ)

本機のホーム画面を開始したり、終了します。

◀/↑/▼/▶ ボタン

上下左右に動かして項目を選びます。

決定ボタン

選んだ項目を決定します。

⑤ SW (サブウーファー) 音量 +/- ボタン

低音のボリュームを調節します。

消音ボタン

音を一時的に消します。

音量 +/- ボタン

音量を調節します。

⑥ 再生操作ボタン

詳しくは「聞く／見る」(6ページ)をご覧ください。

◀◀/▶▶ (早戻し／早送り) ボタン

後戻りや早送りをします。

◀◀/▶▶ (前へ／次へ) ボタン

前または次のトラックまたはファイルを選びます。

▶ (再生) ボタン

再生を開始または再生を再開(つづき再生)します。

■ (一時停止) ボタン

一時停止または再生を再開します。

■ (停止) ボタン

再生を停止します。

音声切換ボタン (39 ページ)

音声フォーマットを選びます。

受信 / 送信 ⓧ ボタン

[Bluetoothモード] を [受信] または [送信] に切り替えます(26 ページ)。

再生できるファイルの種類

ミュージック

コーデック	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III) ^{*4}	「.mp3」
AAC/HE-AAC ^{*1*4}	「.m4a」、 「.aac」 ^{*2}
WMA9 Standard ^{*1}	「.wma」
WMA 10 Pro ^{*2}	「.wma」
LPCM ^{*4}	「.wav」
FLAC ^{*1}	「.flac」、「.fla」
Dolby Digital ^{*2*4}	「.ac3」
DSF ^{*1}	「.dsf」
DSDIFF ^{*1*5}	「.dff」
AIFF ^{*1}	「.aiff」、「.aif」
ALAC ^{*1}	「.m4a」
Vorbis ^{*2}	「.ogg」
Monkey's Audio ^{*2}	「.ape」

フォト

フォーマット	拡張子
JPEG	「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」
PNG	「.png」 ^{*3}
GIF	「.gif」 ^{*3}

^{*1} ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。

^{*2} ホームネットワークサーバー上にある場合、このフォーマットは再生できません。

^{*3} アニメーションPNGまたはアニメーションGIFは再生できません。

^{*4} 本機は拡張子が「.mka」のファイルも再生できますが、ホームネットワーク上にある場合は再生できません。

*5 DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ・ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはホームネットワークサーバーの状態によっては再生できないことがあります。
- ・パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- ・ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- ・本機では3D画像のファイルは再生できません。
- ・デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルや、ロスレスなどでエンコードされたファイルは再生できません。
- ・本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します。
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1つの階層にある500番目までのファイル／フォルダ
- ・本機はホームネットワークサーバー内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します。
 - － 19階層目までのフォルダー
 - － 1つの階層にある999番目までのファイル／フォルダ
- ・USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- ・本機はマストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーやハードディスクなど）、静止画像キャプチャデバイスクラス（SICD）機器、101キーボードを認識します。

対応している音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	入力	
	[HDMI1] [HDMI2] [HDMI3]	[TV] (デジタル 入力)
LPCM 2ch	○	○
LPCM 5.1ch	○	-
LPCM 7.1ch	○	-
Dolby Digital	○	○
Dolby TrueHD、 Dolby Digital Plus	○	-
DTS	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1	○*	○*
DTS96/24	○*	○*
DTS-HD High Resolution Audio	○	-
DTS-HD Master Audio	○	-
DTS-HD Low Bit Rate	○	-
DSD	○	-
MPEG-2 AAC	○	○

○：対応するフォーマット

-：対応しないフォーマット

* DTSコアとしてデコードされます。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは相談窓口へ
ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：HT-XT3
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

フロントL/フロントRスピーカー：

115 W × 2 (1 kHz, 4 Ω)

サブウーファー：

120 W (80 Hz, 4 Ω)

入力

HDMI 入力 1** / 2 / 3

TV (デジタル入力)

アナログ入力

出力

HDMI 出力 ** (ARC)

- * JEITA（電子情報技術産業協会）規定による測定値です。
- ** HDMI 入力 1端子とHDMI出力端子はHDCP 2.2プロトコルに対応しています。HDCP 2.2は、4K映画などのコンテンツを保護する新しく改良された著作権保護のための技術です。

HDMI 部

端子

19ピン基準コネクター（Aタイプ）

USB 部

↓ (USB) 端子：

Aタイプ（USBメモリーおよびメモリーカードリーダー、デジタルスチルカメラの接続用）

LAN 部

LAN (100) 端子

100BASE-TX端子

無線 LAN 部

基準コンプライアンス

IEEE 802.11 a/b/g/n

使用周波数帯域

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH 部

通信方式

BLUETOOTH標準規格Ver.3.0

出力

BLUETOOTH標準規格

Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz

変調方法

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC、LDAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

再生周波数範囲（A2DP）

20 Hz – 20,000 Hz (サンプリング周波数44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz)

- 1) 機器間の障害物、電子レンジ周辺の磁気、静電気、コードレス電話、受信感度、アンテナの感度、本機の操作、ソフトウェアアプリケーションなどにより通信距離が変わることがあります。
- 2) BLUETOOTH 標準プロファイルは機器間の BLUETOOTH 通信のためのものです。
- 3) コーデック：音声の圧縮、変換のフォーマットです。
- 4) Subband Codec の略です。

フロント L / フロント R スピーカー部

スピーカーシステム

2-wayスピーカーシステム、アコースティックサスペンション

スピーカー

ウーファー：65 mm コーン型、マグネットィック・フルイド・スピーカー ×2

トゥイーター：18 mm ドーム型 ×2

サブウーファー部

スピーカーシステム

サブウーファーシステム

バスレス型

スピーカー

110 mm コーン型 ×2

一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電源入時：68 W

最小スタンバイ時：

0.3 W (設定について詳しく述べは40ページをご覧ください。)

最大外形寸法 (幅／高さ／奥行き) (約)

750 mm × 83 mm × 358 mm 最大突

起部含む

質量 (約)

10.5 kg

本機で対応している映像フォーマット

入力／出力 (HDMIリピーターブロック)

フォーマット	2D	3D		
		フレーム パッキング	隣り合わせ (半分)	上-下 (上部-下部)
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz*1	○	-	-	-
4096 × 2160p @ 50 Hz*1	○	-	-	-
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz*2	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz*1	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 50 Hz*1	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz*2	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 25 Hz*2	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz*2	○	-	-	-
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	-	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	-	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	-	-	-
720 × 576p @ 50 Hz	○	-	-	-
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	-	-	-

*1 YCbCr 4:2:0／対応8ビットのみ

*2 対応8ビットのみ

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

ワイヤレス技術について

法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

152	W52	W53	W56
----------------	-----	-----	-----

IEEE 802.11a/b/g/n 準拠
(W52/W53/W56)

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4GHz／5GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4 DS/OF4

この無線製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

2.4 FH8

この無線製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

BLUETOOTH無線技術について

対応BLUETOOTHバージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したもので、す。本機の対応BLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(68ページ)。

通信有効範囲

BLUETOOTH機器は、見通し距離で約10m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN(IEEE802.11b/g/n)機器は同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、またデータ送受信のレートが低下したり、雑音がはいったり、接続ができなくなったりすることがあります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機を無線LAN機器から10m以上、離して使う。
- 10m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- できるだけ本機とBLUETOOTH機器を近づけて設置してください。

他機器への影響

本機が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。

BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。

- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロファイル搭載のBLUETOOTH機器でも、BLUETOOTH通信は保証できません。

- 本機に接続されたBLUETOOTH機器は Bluetooth SIG, Inc. で定められた BLUETOOTH仕様に対応、対応するよう に認証されなくてはなりません。ただ し、機器がBLUETOOTHの仕様に対応 していても、そのBLUETOOTH機器の 特徴、仕様によっては接続できなかっ たり、取り扱いかた、ディスプレイ表示、 操作方法が異なることがあります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通 信環境、周囲の状況によっては、雑音が 入ったり、音が途切れたりすることがあ ります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法 に基づく小電力データ通信システムの 無線設備として認証を受けています。 従って、本機を使用するときに無線局 の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰 セられことがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造 すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある 証明ラベルをはがすこと

索引

あ行

- 映像設定 24
- お買い上げ時の状態に設定 31
- 音声出力 26
- 音声設定 25
- オーディオリターンチャンネル (ARC) 28
- オーディオDRC 25
- オートジャンルセレクター 26

か行

- 外部機器からの操作 31
- 画音同期調整 33
- かんたん設定 31
- かんたんネットワーク設定 31
- 機器名 29
- 機器リスト 27
- クリアボイス 8
- 高速起動／ネットワーク
 スタンバイ 29
- 後面パネル 63
- 個人情報の初期化 31

さ行

- 自動アップデート 29
- 自動アップデート設定 29
- 自動画面表示 29
- 自動電源オフ 29
- 自動レンダラーアクセス許可 30
- 出力映像解像度設定 24
- 上面パネル 62
- スクリーンミラーリング 20

- スクリーンミラーリング周波数
 設定 30
- スタンバイスルー 28
- スライドショー 32
- 接続サーバー設定 30
- 設定初期化 31
- 前面パネル 62
- ソフトウェアアップデート 23
- ソフトウェアライセンス 30

た行

- タイムゾーン 29
- 多重音声 39
- チャイルドロック機能 40
- 通信設定 30
- テレビタイプ 24

な行

- ナイトモード 8
- 入力スキップ設定 31
- 入力レベル抑制設定－Analog 26
- ネットワーク接続診断 30
- ネットワーク設定 30

は行

- “ブラビアリンク” 35
- 本体情報 30
- 本体設定 28
- 本体表示 40
- ホームネットワーク 18、30

ら行

- リモコン 64
- リモート起動 31
- レンダラーーアクセス制御設定 31

わ行

- ワイヤレス再生品質 28

A-Z

- BLUETOOTH 10
- Bluetooth Codec — AAC 27
- Bluetooth Codec — LDAC 27
- Bluetoothスタンバイ 27
- Bluetooth設定 26
- Bluetoothモード 26
- DSEE HX 9, 25
- Google Cast 19
- HDMI
 - YCbCr/RGB (HDMI) 25
 - HDMI Deep Color出力 25
 - HDMI機器制御 28
 - NFC 12
 - SBM 25
 - SongPal 34
 - USB 6
 - Video Direct 25
 - 24p出力 24
 - 4K出力 24

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL) を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

- お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
- 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアについて本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修復又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。
2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。
3. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重大過失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第 8 条（著作権保護及び自動アップデート）

- お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。
- お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。
 - 許諾ソフトウェアのセキュリティー機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、
 - 当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること
 - アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第 9 条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティー及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第 10 条（契約の解約）

- ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
- 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第 4 条、第 5 条乃至第 13 条の規定は有効に存続するものとします。

第 11 条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から 2 週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第 12 条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第 13 条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル0120-333-020	フリーダイヤル0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9599

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

LDAC

HDMI



* 4 5 5 8 5 6 1 0 2 * (1)